

私たち雄鴨は越冬のために日本に渡り、発情期を迎えます。鳥でも見栄えは大事です。美しい繁殖羽が無ければ、雌鴨に見向きもされないのです。

私たちの多くは十和田湖で過ごしますが、大きな湖で小さな鴨は見つかりにくいかもしれません。そんな時はラウンジへ向かうか展望台へ上がり、双眼鏡を通して湖岸に目を凝らしてみましょ。ところで、ビジターセンターの木材は十和田湖周辺で伐採したものであることをご存知でしたか？

ホオジロガモ

ホオジロガモは「白い頬のカモ」を意味する和名を持ち、その名の通り、頬に白い模様があります。

マガモ

マガモは、頭部や首の羽根が緑がかった玉虫色をしていることから、日本では「アオクビカモ」とも呼ばれています。マガモたちは十和田湖一帯で冬を過ごし、季節の変わり目に北に渡ります。

ホシハジロ

白い体に赤茶色の頭部を持つホシハジロは、その見事なコントラストにより、水鳥の群れの中でもひととき目立つ存在です。スズガモ亜科に属するだけあって、湖や大きく流れの緩やかな川を好みます。雌の目は茶色ですが、雄はルビーのように赤い目をしています。ホシハジロを十和田で見ることができるのは冬の間だけです。

カワアイサ

先端が折れ曲がった細長いくちばしを持つカワアイサは、魚を主食とします。細い体は、水中で魚を追いつくのに適しています。カワアイサは湖や湿地、河口周辺で、つがいや小さな群れでいるところを見ることができます。カワアイサもまた、十和田で見ることができるのは冬の間だけです。

オシドリ

雄のオシドリが持つ繁殖羽は、他の鴨のものとは比べても特に魅力的です。雄の背中には三角形の「帆」の形をした羽根があるので、探してみてください。オシドリは一年を通して十和田で過ごしますので、季節を問わず見ることができます。

キンクロハジロ

雄のキンクロハジロの特徴は、その長い冠羽です。雌にも冠羽がありますが、雄のものより短いです。雌のくちばしの基部は白い色をしています。雄も雌も明るく黄色い目をしています。キンクロハジロは湖や湖岸の周辺で見られる冬の渡り鳥です。

求愛に備えて生え変わる羽根

雄鴨たちが渡ってきて間もない頃は、くすんだ茶色の夏羽をまとっていますが、冬の発情期に備えてオシャレな繁殖羽に生え変わります。発情期が到来すると、雄鴨たちは泳ぎ回って雌に求愛することに集中します。